

硬筆アート展総評

四半世紀に渡って「硬筆アート展」を続け、硬筆と書のアートの向上に努めています。

毛筆を除く各種の筆具（つけペン・ボールペン・筆ペンなど）で文字を丁寧書いた「筆具部門」と毛筆・筆具以外のもので文字を表現した「創作部門」があります。

今年度は少し出品数が増え、高校生（十七才）から九十三才までの幅広い年齢層の作品が集まりました。

「筆具部門」の出品数が増え、全体のバランスの良い展示となり、それぞれの部門の良さを、じっくりと味わっていただきたいと思います。

二年に一度の移動展を今年は江津市で行います。県西部の皆さんにも鑑みていただいて、手書きの文字の美しさ・温かさ、いろいろなもので文字を表現する楽しさ・面白さを感じていただきたいと思います。

来年もまた出品していただき、そして新しい人にも出品していただきたいと思います。感謝・感謝です。

文責 森脇東雲

知事賞 「奥の細道」

島田 洋三（江津市）

奥の細道の一節を、力強くリズムカルにカラフルに表現した作品です。文字は焼きペンでふちどり、中につまようじで、赤・青・緑・茶色などの色を根気強くいれています。

「百」の文字の中には「百」をうかび上げらせ、またのびやかな線や太細の線の差のおもしろさでパッと目を引く作品です。

長年、木と焼きペンと向き合ってこられた思いがあふれる、心温まる作品となりました。

文責 伊藤紅水

金賞 「未来への希望」

松尾 純也（出雲市）

「彩」の文字をダンボールでくり抜き、赤、オレンジ、黄、緑、青、群青、紫色のアクリル絵の具で書いておられ、鮮やかな色彩がパッと目に飛び込んできます。

七色の虹をイメージされ、雨上がりから青空に、という未来への希望を込めて作品をつくられていて、大変感心しました。

この様に明るい作品を今後も期待しています。

金賞受賞おめでとうございます。

文責 石原翠絹

銀賞 「愛につつまれて」

高藤 美枝子（江津市）

毎年「ウロコアート」で硬筆アート展を盛りあげていただいています。どれもすばらしい作品ばかりです。

高藤さんの作品は「愛」という文字を動きのある行書で、線の太い細いの変化も絶妙です。字の横の小さな「アイラブミー」の絵がかわいくて一層作品をすてきにしています。

おめでとうございます。益々のご発展を…。

文責 森脇東雲

銀賞 「秋 桜」

和田 京華（出雲市）

この作品の筆路を見ると、筆者の日頃のやさしい言葉使いが浮かんできます。

漢字と仮名の響き合いも良く、微笑ましく思いました。

そっと描かれた挿絵も可愛らしく感心しました。今後益々の御精進を期待しています。

銀賞おめでとうございます。

文責 伊藤松溪

銅賞 「月光の一節」

小村 美里（出雲市）

一見して配色のすばらしさが目にとび込んで来ました。

青色の地に、白色ボールペンを使い、鮮やかに書かれていました。

筆者の硬筆に対する取り組みの素晴らしさが表れていました。

今後の御活躍を期待しています。

銅賞おめでとうございます。

文責 伊藤松溪

銅賞 「鳥」

野坂 泰堂（安来市）

手すき和紙に水面を泳ぐ「鴨」を連想するかわいらしい「鳥」の文字、ステキです。

布に綿をくるんだ「たんぼ」を使って書かれていますが、筆の様には墨が続かず、大変だったと思います。でもかすれ具合がちょうど良く心安らぐ作品に仕上がりました。

来年もさ来年も秀作を期待しております。

文責 石原翠絹

銅賞 「無」

野津 曜子（松江市）

水鉄砲で墨を飛ばし、「無」という字を表現した作品です。

ユニークで遊び心にあふれたアプローチに心ひかれます。

「無」の草書体を一見すると偶然の飛沫のようでありながら、墨の勢いや飛び散りを、見事にコントロールしていて驚きです。

作者の型にはまらない大胆さが感じられる印象的な作品です。

文責 伊藤紅水